

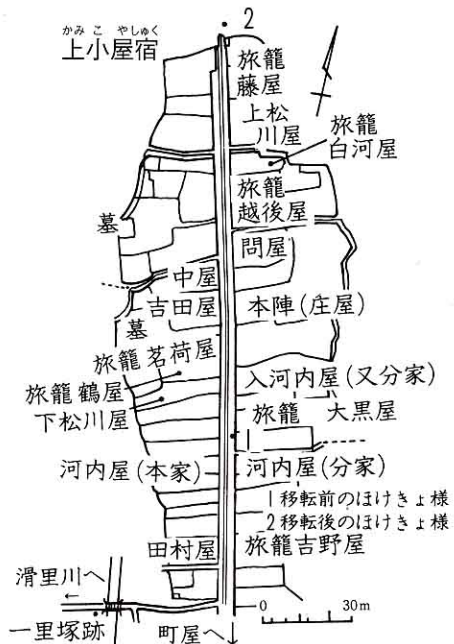
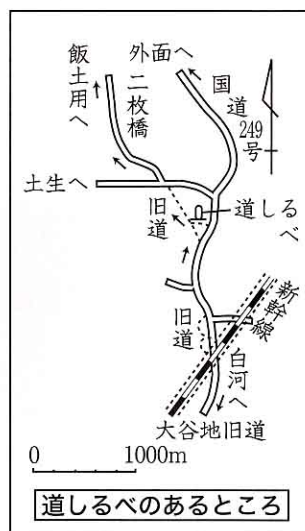
こうして、明治時代になるまで、飯土^{いいど}用、上小屋には旅人^{たびびと}をとめるやど屋や問屋^{しゆくば}などができて宿場としてにぎわいました。

② 道しるべ

白河から大信村に通ずる、大谷地^{おおやち}地内の旧道と国道249号の分かれ道の東側の草むらに、高さ約160センチメートルの石づくりの道しるべ^やがあって「右北郷・左会津街道^{きたごう}」ときざまれています。たてた年代は、わかりませんが、かなりの年月がすぎています。*北郷とは、外面・増見^{とづら}方面^{ますみほうめん}をさしています。

また、飯土用の道ばたに40センチメートルぐらいの道しるべ^にがあって、「右・大屋村上小屋、左・西郷村羽太」ときざまれています。大正時代に村人がたてたものといわれています。

聖ヶ岩、ふるさとの森の中にも、道しるべ^にがあり、50センチメートルぐらいの高さの自然石に東くまど村、西かし道、ときざまれています。



白河市大谷地内の道しるべ